

平成30年度

【SDGsを活用した環境経営促進講座】報告書

平成31年3月

環境教育ネクストステップ研究会

目次

はじめに（講座開催の背景と目的）	1
(1) 各回のねらい.....	1
第1回 開催報告.....	1
主催者挨拶	1
講演概要.....	2
第2回 開催報告.....	4
事例発表.....	5
第3回 開催報告.....	8
おわりに	11

はじめに（講座開催の背景と目的）

私たちが平成 29 年度エコパートナーへの委託事業として実施した「ESD の現状調査と推進策の研究」において、市内の企業を対象に行ったアンケート調査の結果、顕著に見えてきたことは、企業の ESD（持続可能開発のための教育）と SDG s（持続可能な開発目標）の認知度は、いずれも低いですが、SDG s の認知度は短期間で ESD のそれと同等にまで高まっていることであった。また、企業は行政に対して ESD や SDG s 等に関するわかりやすい資料の提供や学習会、講演会の実施を望む声も多かった。

そこで、今年度は、昨年度の調査研究の結果を受けて、SDG s をツールとして企業の環境経営への取り組み意欲を増すことを目的とした 3 回の連続講座を実施することとした。

（1）各回のねらい

① SDG s と企業の環境経営

初回となるこの回では、SDG s と企業経営の関わりに詳しい方をお招きし、SDG s への対応が国内外の企業の中に広まっていることや今後の企業経営に欠かせないことを、環境経営にからめて学ぶ。

② 先進事例に学ぶ

すでに、SDG s を企業の経営に取り入れ、環境課題の解決につなげている企業の事例を聞く。事例としては、製造業の多い本市の企業の参考としていただくため、製造業から 1、2、サービス業から 1 事例を予定。

③ 我が社の取り組みを SDG s の視点から見る

ここでは、参加いただく企業の環境レポートや CSR 報告書、事業報告書などを基に、他者の目線もいれて、ワークショップ形式で SDG s の視点から眺め、各目標とのつながりや重点を置くとよい目標を発見する。

第 1 回 開催報告

日 時：平成 30 年 10 月 30 日(火)15 時～17 時

場 所：四日市市役所職員研修室、参加者 54 名

テーマ：SDG s と企業の環境経営

講 師：SDG パートナーズ代表取締役 CEO 田瀬 和夫 氏

主催者挨拶

環境部長 田中 賢二

SDG s は持続な開発目標として 2015 年に国連で採択された共通の目標。一般の関心は高くないが、企業ではすでに広がっている。

昨今の環境課題、地球温暖化や海洋汚染、生物多様性など、対策を打たないと取り返しがつかないことになる。企業がそこに危機感を持った結果が、環境投資 ESG 投資に現れている。かつて公害を経験し、環境改善に取り組んだ四日市市で、SDG s をテーマとした講座をできることは喜ばしい。これをきっかけに四日市市から SDG s を広げる機運を高めていけることを祈る。

講演概要

(1) SDG s と企業活動

SDG s は、国連で世界のすべての加盟国が同意したものであり、国連憲章に次世代も考慮した時間軸を加えたもので、現時点で人類が到達した一つの生存戦略と言える。2030年のありたい世界の姿を示している。しかし、これは政治的宣言であり、法的な拘束力も持たないものである。

それにも拘わらず、なぜ、多くの企業が意識するのか。それは、SDG s を推進する中に

- ・ 多くのビジネスチャンスが創出される
- ・ コンプライアンスの圧力が上がる
- ・ これを進めないとビジネスの土台である政情不安、環境資源の喪失等を招くからである。

では、SDG s に取り組むとはどうすることなのか。現在の取り組みは、多くが自社の活動と SDG s の 17 の目標の紐づけに終わっている。SDG s を経営戦略に落とし込んでいくことが必要である。その時の、基本的な考えは、逆算思考（時間的逆算と論理的逆算）とリンケージ（連関）である。ここまで行きたいという目標（2030年に達成していきたい目標）からバックキャストिंगして、今必要なイノベーションを起こしていくことが時間的逆算であり、課題に対して対処療法的に対応するのではなく、論理的に解決策を実施することで、根本原因の解決につなげるイノベーションを起こしていくのが論理的逆算である。また、それぞれの目標は、互いに関連しており、（各組織にとって）梃子（てこ）となる目標（レバレッジ・ポイント）が一つか二つある。それに対する施策を実施する中から、一気に様々な状況が改善されていくという、いわばドミノ現象が起こりうる。例えば、国連の世界食糧計画（WFP）は、学校給食を推進する目標 2 の飢餓をゼロにするところからスタートして、複数の SDG s 目標を連鎖的に達成するというつながりを考えている。この講座の第 2 回で発表していただく、コマニー株式会社は、目標 9 の産業と技術革新の基盤を作るところをキーに、さまざまな目標に関連していくメビウスモデルとして、経営戦略に取り込まれている。

企業にとって、SDG s に関係して、もう一つの大きな流れは、ESG 投資である。ESG 投資は、環境への配慮やサプライチェーンの透明性、不正をしない健全性など、企業にとって内臓の健康診断のようなものである。これを見ることによって、10 年後この企業がどうなっているかを判断して投資しようとするものである。これは、企業にとっての必要条件であり、これだけで利益が上がるものではない。しかし、SDG s に紐づいた ESG 投資について知らないでいると、突然投資の引き揚げ（ダイベストメント）がなされることがありうる。いま企業が見られているのは、気候変動への対応や人権（サプライチェーンでの児童労働がないかなど）が見られている。例えば、石炭火力への投資している企業に対して、ヨーロッパのいくつかの投資家は引き揚げると言っている。このようなことを意識しておかないと日本の企業価値は大きく落ちる。

環境に関していうと、気候変動のリスクと機会が各企業の財務に及ぼす影響の開示（TCFD など）とか、海洋プラスチックに関する対応が企業を評価するものとして入ってくることを考えておく必要がある。SDG s の各目標を環境の視点で考えていくと、環境がベースになってその上に経済活動があるというリンケージ（ストックホルム・レジ

リエンスセンターのSDG s ウエディングケーキモデルなど) が考えられる。

(2) SDG s と地方自治

政府による地方創生は、①地方に仕事を、②地方に人の流れを、③結婚・子育てができる、④まちづくり、から成り立っているといえる。このうち①以外は、成功していない。

地方創生には、いくつもの成功モデルがあるが、いずれも単一事象への取り組みに終わっており、波及効果が出ていない。これには、地方行政の縦割りがあり、それぞれがバラバラに行われていることによる。例えば、環境への取り組み、社会に対する取り組み、ガバナンスに対する取り組みに投資されているが、それらをつなぐ部分への投資はなされていない。それをつなごうとするのがSDG sを意識した取り組みである。内閣府もそれを目指そうとし始めている。内閣府がSDG sに取り組むのに一番大切なのは、リンクージ(連関)であると言っていることは、地方自治においてSDG sを考える最も大切なことである。

SDG sを地方創生に取り入れようとする動きは、全国に広がりつつある(SDG s未来都市など)。四日市市、三重県でも、是非、取り組んでほしい。

(3) 中小企業とSDG s

中小企業がSDG sに取り組む理由を企業側から見ると

- ①SDG sに取り組もうと思うと、経営理念と社会的意義を考え直すことになり、ぶれない経営の軸足ができる。
- ②世界のビジネスの潮流に乗ることができる。
- ③SDG sを活用し、情報発信を行うことによって、ブランディングすることができる。それによって、いい人材の確保にもつながる。

また、外側から見ると、

- ①中小企業にしかできないイノベーションがある。(大企業では迅速な意思決定が難しい)
- ②中小企業ほど、地場の経済に貢献できる企業はない。地域の発展に貢献できる。
- ③経営者と社員の距離が近く、地場の人材が育成できる。

といった良い点がある。

経営の向上と利益の増大につながる。地域から見ても中小企業がSDG sに取り組んでもらうことの便益は大きい。中小企業がSDG sに取り組まない手はない。難しいのは、明確で簡単な経営理念を作ることである。

(4) スマートシティとSDG s

四日市市にもスマートシティ構想があるということなので、このことに触れておく。日本で言われているスマートシティの概念は、スコープが狭いように思う。ジェンダーをどうするのかとか、障がい者をどうするのかなどが入っていない。まだ、技術者の作っている実験場のように思う。もし、取り組むなら、より広い社会課題を人と技術でつなぎ合わ



講演する田瀬和夫氏

せるようなものであってほしい。それらは、最終的には次世代に繋がるものである必要がある。

(5) 最後に

SDG s の 169 の目標（ターゲット）が達成されれば、幸せになるか、例えば、常時コンビニで 25 種類のおにぎりを買えることが、（幸せになる）十分条件ではないことは、誰もが分かっているが議論されていない。

こうした根源的な幸福のあり方についても、SDG s は 2030 アジェンダ前文の中で述べている。「誰一人取り残さない」前文パラ 2 は、有名であるが、前文の最初（パラ 1）に書いてあることがある。それは、「in larger freedom」より大きな自由ということである。ここでいう自由（freedom）は、自分でできることが大きくなることである。世界中の人が、自分にできることが増えて、よりよく生きることができるようになることが一番の目指すところである。企業も、そのようなことをビジネスの中で考えていくことが本筋ではないかと思う。このような考えに賛同していただける経営者もだんだん増えてきていることは、心強い。未来は、明るいのではないか。

今日は、90 分にわたる長い講義を聞いていただいて有難うございました。

第 2 回 開催報告

日 時：平成 30 年 11 月 28 日（水）15 時～17 時

場 所：四日市商工会議所ホール、 参加者 43 名

テーマ：企業の先進事例に学ぶ

講 師：①コマニー株式会社 常務執行役員 塚本 直之 氏

②株式会社マルワ 社 長 鳥原 久資 氏

③ユニー株式会社 顧 問 百瀬 則子 氏

講座概要

開会（司会：谷崎）・第 1 回の振り返り（寺田）

- ・第 1 回は SDG パートナーズ CEO の田瀬和夫様の講演。
- ・SDG s は企業にとってビジネスチャンスであり、コンプライアンスとして配慮しなければグローバル社会から圧力を受けるもの、政治上の不安・環境資源・ビジネス上の顧客である中産階級の縮小などの問題に対処が可能となるもの。
- ・SDG s の取り組みにおいて大切なことは、①時間的逆算思考（ムーンショット）、②論理的逆算思考（対処療法では問題解決にならない）、③リンケージ思考（ドミノ効果 17 個はバラバラではいけない）。
- ・これからの企業のブランディングに欠かせないものとなる。特に地域の中小企業にとってはイノベーションを生み出す原動力となるもの。

事例発表

1. コマニー（株） 常務執行役員 塚本直之氏

- ・石川県小松市の会社、パーティションを製造販売。
- ・リーマンショックで赤字を計上、2011年（創業50周年）に再スタート、2016年（創業55周年）に「世の中の幸せのために企業がある。関わる人全てが幸せに」を目指し、55Visionを策定。コマニー（株）が目指す「関わる全ての人が幸福となる経営」とSDGsの目的が一致していると考え、2018年4月2日に「コマニーSDGs宣言」を行った。
- ・SDGsの目標9である技術革新をレバレッジ（てこ）として、これらを持続的に循環するための「コマニーSDGs∞（メビウス）モデル」を採択。メビウスモデルの左の「ガバナンス」と右の「プロダクト・サービス」は独立しているわけではなく、左右で循環・向上させるもの。
- ・2018年11月「災害時、二次被害ゼロの社会をつくるビジネスアイデア ～キレイな避難所トイレ環境～」でSDGsビジネスコンテスト優秀賞を受賞。ユニバーサルデザインを追求したオールジェンダー対応トイレはグッドデザイン賞を受賞。
- ・社会貢献活動として地域貢献（子どもの職業体験など）、日本貢献（被災地ボランティアなど）、世界貢献（カンボジア支援）を展開。
- ・地球環境との共存を目指し、太陽光発電システムの増設、社用車としてテスラの電気自動車を採用、マイボトルの推進など。また今年8月、グローバル・コンパクトへの署名を行った。
- ・SDGsに取り組み始めた効果として、①新たなビジネスへの挑戦機会が増えた。②選択と集中の明確化により意思決定のスピードが上がった。③パートナーシップの可能性が拡大し、今まででは考えられなかった会社とパートナーシップが取れるようになった。



2. (株) マルワ 社長 鳥原久資氏

- ・愛知県名古屋市の印刷会社。1958年創業、従業員29名。
- ・3つのISOの運用のためにそれぞれ委員会を作って対応している。環境委員会（ISO 14001 行動指針：地球に優しさ発信）、品質向上委員会（ISO 9001 行動指針：お客さまあつての品質向上）、情報委員会（ISO 27001 行動指針：お客さまに安心と信頼を提供する情報セキュリティの実現）。
- ・印刷業会はブラックな印象、値引きしか他社との差別化ができない。情報発信はSNSへ移り、紙媒体は減少の一途。ビジネス環境は激変しており、5年後さえ予測不可能。その中で非財務情報が企業価値の尺度になり始めた。以前からCSR活動を推進しているがCSRは難解。そこでSDGsに着目。
- ・SDGsに取り組むことにより企業イメージが向上。社会課題に取り組むことは生存戦略となり、また新たな事業機会の創出につながっている。小さな価値の発見で自社の潜在能力に気づく。
- ・マルワのSDGs
 - ①MUD（メディアユニバーサルデザイン）～配布資料「見え方の多様性」参照。2018愛知県ユニバーサルデザインガイドラインの制作。
 - ②インターンシップ・職場体験～2016-2018で会社見学466名。社員教育にもつながる。
 - ③女性活躍推進～「えるぼし」「あいち女性輝きカンパニー」の認証取得
 - ④エコキャップ運動への参加～ゴミの分別・カーボンオフセット
 - ⑤紙でエコする「カミデコ」～社内で残った紙を紙製品に再生
 - ⑥公園清掃～毎月全社員による公園清掃
 - ⑦バナナペーパー～アフリカのザンビアで生産されたバナナの茎の繊維に古紙やパルプを加え、越前和紙の製法で作られたフェアトレードペーパー。名刺やカレンダーを印刷。
- ・2030年にも元気な組織であるために社内でもSDGsを発信～配布資料「Printalk」参照。
- ・SDGsへの取り組みは結果として売上アップにつながっているが、それは結果論で儲けの手段と考えてはいけない。



3. ユニー（株） 顧問 百瀬則子氏

- ・ユニー（株）は名古屋市に本社を置く総合小売業のチェーンストア。
- ・百瀬様はCSR担当だったが退職し、現在顧問。
- ・企業として未来の子どもたちのためにSDGsに取り組み、消費者と一緒に買い物で地球を守る。
- ・2008年、すでに環境への取り組みのトップランナーだったユニーは、洞爺湖サミットに先がけて、鴨下環境大臣と、更に高い目標であるエコ・ファーストの約束を交わした。



- ・ユニーのエコ・ファーストの約束は、食品廃棄削減とリサイクル推進や地球温暖化防止など企業活動と、消費者教育でエコライフスタイルを提案し、推進すること。
- ・食品ロスの原因の一つに、「お客様は奥の棚から新しい商品を取りがち。また閉店間際まで商品がないと不満」などがあり、消費行動由来のものがある。消費者に啓発活動を行い、食品ロスを削減する活動を実施している。また、店では廃棄物を分別し、堆肥やエコフィード等食品リサイクルの原料として、温度管理した廃棄物庫で保管している。
- ・食品リサイクルループ ～店から排出した食品残さをリサイクルする堆肥化施設やその堆肥を使って栽培した畑で、子ども達に「命をいただいて生きていること」を学んでもらっている。循環型農業・地産地消のリサイクル野菜は消費者にも好評。
- ・レジ袋廃止 ～横浜市で試験導入時は、消費者に理解されず売り上げが落ちた。しかし売場の従業員のPRにより、3ヶ月で売上は回復。その反省から、地域の自治体・消費者・同業社と連携し、全国展開につながった（一度使っただけでゴミになるようなものは使わないというお客様との合意）。また、レジ袋の削減により5億円のコストカットになった。
- ・SDGsの取り組みは、従来から取り組んでいる環境活動（ISO14001）などに関連させて、事業計画に組み込むことと、従業員各人のネームホルダーの環境目標にSDGsのピクトを入れることにより、「自分ごと」にしている。

4. パネルディスカッション

ファシリテーター（寺田）、パネリスト（事例発表者の3氏）

（SDGsを従業員とともに進めるには）

塚本：独自性・経営理念が大前提となる。企業の強みを生かして何が出来るかを考える。

鳥原：理念で社員のモチベーションを上げる。お客に特別感が伝わる。

百瀬：業績が落ちると業務以外の活動に費やす時間や意欲が低下してしまうことがある。

しかし、従業員は消費者や地域が喜んでくれることを望む。お客様から「そうだね」

と言われることを積み重ねることで、モチベーションが保てる

(そうは言っても経営は大変では)

塚本：問題やゴールに取り組まないことの方がリスク。近い未来のリスク・危機感への対処は社会が認める。

鳥原：先ずはトップが楽しむ。お金のかからないことからやる。

百瀬：プラスチック製容器包装やレジ袋の規制が法律になることを事前にキャッチすることでいち早く対策を図る。地域行政や消費者と協働で信念を持ってやる！これが一番。

(以前から行っていた活動と比較し、SDG sにつなげると何かいいことがあるか)

塚本：ISO 取得の時は、これがないと付き合いに支障が出るという後ろ向きの姿勢だった。

SDG s は今取り組めば企業価値が上がる。

鳥原：SDG s は CSR よりお客に伝えやすい。SDG s のバッジを着けているだけで独自性を出せる。営業担当は弊社の様な小さいところでもグローバルに社会貢献していくとPRしている。

百瀬：企業としてSDG s に取り組むことで、地球環境や地域社会に貢献できる。また、子ども達はこれから学校でSDG s を学ぶので、お父さんお母さんの会社は何番をやっているなど親子の会話が生まれる。

第3回 開催報告

日時：平成30年12月12日(水)15時～17時

場所：四日市商工会議所 中会議室、参加者26名

テーマ：我が社の取り組みをSDG sの視点から見る

講師：環境省中部地方環境事務所 西田清紀氏

環境省発行「すべての企業が持続的に発展するために - 持続可能な開発目標(SDG s)活用ガイド -」について

- ・2018年6月に作成
- ・環境省が推進するSDG sのゴールは、関連しているものを推進する。
- ・SDG sをベースにして、環境計画を作成している。
- ・自治体でも取り組みが始まっている。
 - ・・・・愛知県の環境行動計画に位置付けられているが、中部地域自体は遅れている。
- ・東京オリンピックでも、気候変動、資源管理なども様々な目標が導入されている。
- ・大阪・関西万博でも、目標に掲げられている。

- 東京・関西は盛り上がっている
- ・事例紹介 リクルートは、10番をメインに何をするのかホームページで明示している。
日本フードエコロジーセンターは、取り組みに色付けをすることで、やっていることを明確化している。
- ・CSRは地域への貢献。SDGsは本来業務でどんなことができるかというもの。
- ・会社の理念、社是、環境方針、環境宣言などが、そのまま目標に使える。
- ・ESD for SDGs チェックリストを作成した
→自分の会社の取り組みを当てはめていくシートとして活用して欲しい。

ワークショップ（我が社の取り組みをSDGsの視点から見る） 15時30分から

- ・モデルとなっていたいただいた企業紹介
 - 1班 藤井燃糸株式会社
 - 2班 コスモ電子株式会社
 - 3班 DIC株式会社
 - 4班 株式会社東産業
- ・各グループでSDGsチェックシートの確認、みんなで発展させる。
- ・各社毎に、「我が社とSDGsの関連表」を作成し、キーとなるSDGs目標を考える。

結果発表 16時45分から

株式会社東産業

社是：社業の健全な発展を通して社会を構築する

ほぼ、すべてのSDGs目標が企業活動のいずれかに関わっている。

新しいビジネスの目標・・・すべての人に健康と福祉を

- ・教育活動をCSRに→既に実施
- ・安全な水とトイレ→すでに実施
- ・エネルギー→池の汚泥管理をする際にソーラーパネルを浮かべて発電する取り組みを実施している。
- ・作る責任→モノづくりではないから作る責任はないが、ごみの分別や出していく側の管理ができていないのは、リスク。会社としてやっていかなければいけない。
- ・東産業の強みは、水に関する総合力のある提案ができること。
- ・ウィークポイントでは、コストの上限が決まっている仕事は、東産業ならではの安全性を付け加えると、最低入札額に足が出て、コンペで負けてしまう。

藤井燃糸株式会社

- ・社是：手と頭を使って、心を込めて明るく味なことをやる安心企業
- ・地元の人が多く、採用されている。
- ・カーペットの糸の加工で4割のシェア。
- ・ビジネスチャンス：すべての人に健康と福祉
→フローリングとカーペットの安全性に関して
病院ではフローリングが多いが、転倒した時の安全性やほこりの飛散に関してはカ

ーペットが優秀。

- ・現在使っている糸は石油由来のものだが、リサイクルや自然素材などでの商品開発ができないか。
- ・リスク：電気代が 1200 万円。エネルギーのリスク。
外国人の雇用などから平等の観点が重要。

目標：9 を中心に取り組んでは、

新しい魅力ある素材を作ることで、社員の意気も高め、街づくりにも生きてくる。

コスモ電子株式会社

- ・社是：企業は社会の一員。
- ・外国人の社員も多い。ごみの分別が難しいが、多言語のマニュアルを作って、迷惑をかけないようにしている。
- ・技術の裏付けがないとできない 3R。日本だけでなく、海外へのごみの流出を防ぐ
つくる責任はもとより、つかう責任も大切

目標：4. 質の高い教育をみんなに 12. つくる責任・つかう責任では
地域の教育企業として貢献。ごみを減らすことにも

DIC 株式会社（四日市工場）

- ・社是：化学で彩りと快適を提案する
- ・業務と関連：法律順守
- ・新ビジネス：貧困をなくそうがつながりになかったので、入れてみた
- ・目標：15. 陸の豊かさを守ろう→吸収性ポリマーを使って、砂漠を緑化しようという目標
→緑化すると目標13 気候変動に具体的な対策を、にもつながる。
- ・リスク：マイクロプラスチックの問題→生分解性プラスチックへの転換も視野に入れる。

まとめ（環境教育ネクストステップ研究会 寺田）

第1回の講座で SDG s とは何かということから始まって、今回市内に事業所のある4社の企業さんが各社の事業を SDG s の視点から見てみる取り組みに参加していただいた。短い時間で、参加者が各企業の業務内容を理解するための時間が十分とれなかったが、それでも、各社の事業がいくつもの SDG s 目標と繋がっており、主とする取り組み目標も見えてきた。

次年度には、是非、この取り組みを本格的に行っていただけると嬉しい。

おわりに

この取り組みを行った平成 30 年度は、3 回の連続講座を行っている間にも、SDG s の取り組みが、全国の行政や企業において進んでいくことを感じられる期間でした。今回の取り組みでは、四日市商工会議所が共催として入っただけ、会員企業様への周知を働きかけていただきました。このこともあり、初回から多くの企業様に参加いただくことができました。また、第 1 回で講演をしていただいた SDG パートナーズの田瀬和夫さんからは、わかりやすく示唆に富んだ話を聞くことができ、多くの参加者からよかつたとの声をいただきました。

その流れの中で、第 2 回には具体的な 3 つの事例を聞くことができ、第 3 回には市内の企業さんから 4 社が名乗り出ていただいて、SDG s の取組に繋がる第一歩を踏み出していただくことができました。

今後、企業が SDG s に取り組むという流れは、ますます強くなると考えられます。今回の取り組みが今後の参考になり、市内の企業さんが率先して SDG s の活用を始めていただけることを期待します。

エスディーゼーズ SDGs と企業の環境経営



SDGs（持続可能な開発目標）の考えを企業経営に取り入れる事業者が増えています。SDGsは、2015年に国連で採択され貧困の根絶や格差の解消、経済活動と環境の両立など17の目標を2030年までに達成することを目指しています。なぜ、企業がSDGsの考えを経営に取り入れようとしているのでしょうか。3回の講座で、考えや先進的に取り入れている事業所の声を聞き、これからの経営に生かしてみませんか？当講座では、主に環境分野の目標から取り組みを考えていきます。

全3回無料開催！

第1回

10月30日(火)
15時～17時

SDGsと企業の環境経営

会場：四日市市役所本館 11階 職員研修室
定員：50名

講師：SDGパートナーズ代表取締役CEO 田瀬 和夫 氏

1967年福岡県生まれ。東京大学工学部原子力工学科卒、ニューヨーク大学法学院客員研究員。1992年外務省入省。2005年同省を退職し、国際連合事務局・人間の安全保障ユニット課長を経て2010年より国連広報センター長。2014年国連を退職し、デロイトトーマツコンサルティングの執行役員兼CSR・SDGs推進室長。2017年より現職。「国連フォーラム」の共同代表。



第2回

11月28日(水) 15時～17時

企業の先進事例に学ぶ

会場：四日市商工会議所一階 会議所ホール

発表者：ユニー株式会社 顧問 百瀬 則子氏
コマニー株式会社 常務執行役員
塚本 直之氏

株式会社マルワ 社長 鳥原 久資氏

定員：70名

第3回

12月12日(水) 15時～17時

我が社の取り組みを SDGsの視点から見る

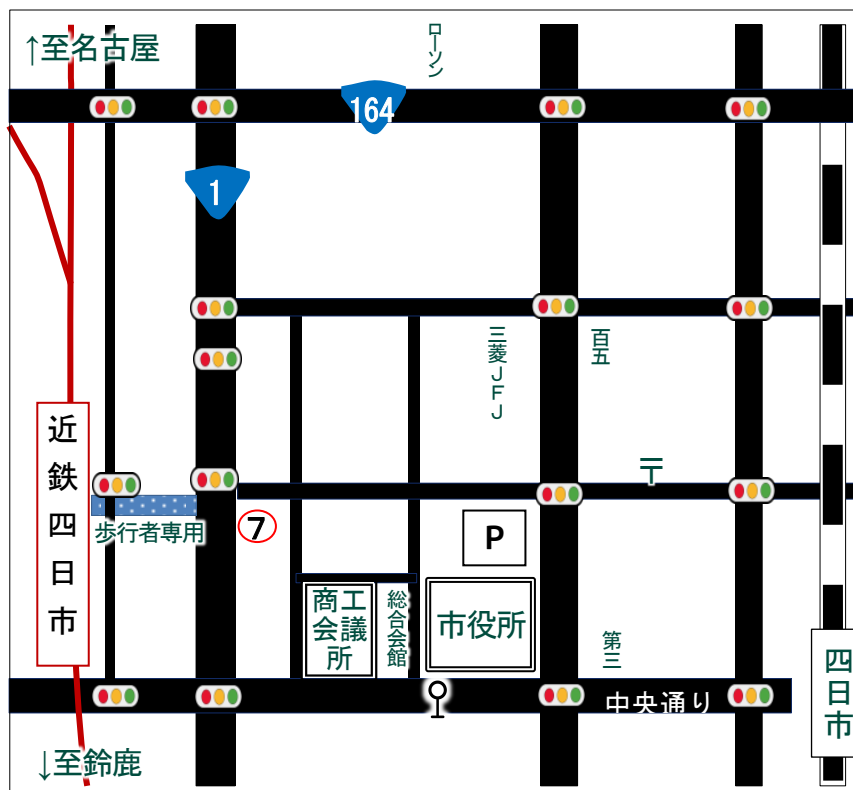
地元の意欲ある企業を対象に、それぞれがどのような取り組みを目指すのがよいか考えるワークショップを行います。

会場：四日市商工会議所3階 中会議室

定員：40名

会場アクセス

- 近鉄四日市駅
あすなろう四日市駅
→中央通りを東へ徒歩 10 分
- JR 四日市駅
→中央通りを西へ徒歩 10 分
- 市役所前バス停
(三重交通バス・三岐バス)
→徒歩 1 分
- 3 回とも市役所隣の
市営駐車場が利用できます



申し込み

対象者：市内に通勤する人または、SDGs を活用した環境経営に関心のある人。

受講申込：下記宛先へメール、ファックス、または環境保全課（市役所 5 階）に直接
下記内容を記入の上、お申し込みください。

しめきり：先着順で受け付け。各講座前日必着。

※定員オーバーで参加いただけない場合のみ連絡致します

「SDGs と企業の環境経営」 申込書

参加希望回 (○をふる)	第 1 回 (10/30) SDGs と企業の環境経営	第 2 回 (11/28) 企業の先進事例に学ぶ	第 3 回 (12/12) 我が社の取り組みを SDGs の視点から見る
所属			
受講者名			
連絡先 (電話番号 E-mail)			

申込み 四日市市役所 環境保全課 〒510-8601 三重県四日市市諏訪町 1 番 5 号
【TEL】 059-354-8188 【FAX】 059-354-4412 【E-mail】 kankyuhozen@city.yokkaichi.mie.jp

運営 環境教育ネクストステップ研究会

第2回 企業の先進 事例に学ぶ



SDGs（持続可能な開発目標）は、地球環境を守り、貧困を克服して全ての人が平和と豊かさを享受できるような世界を目指す目標で、国連で採択されて3年が経過し、国内でも関心が高まっており、ビジネスの世界でも「共通言語」となりつつあります。

企業が取り組む目的はどこにあるのでしょうか。新たなビジネスチャンス、今後の取引条件になる可能性、社会課題への対応、企業イメージの向上などいろいろな側面があるようです。今回の講座では、すでに取り組みを始められている3社の先進事例から学びます。

日時 11月28日(水)
15時～17時

会場：四日市商工会議所1階 会議所ホール

定員：70名

【発表企業、発表者プロフィール】

① コマニー株式会社

石川県小松市本社のパーティショントップメーカー

常務執行役員 塚本 直之 氏

大学卒業後、スタンレー電気(株)勤務を経て、2007年入社。2018年より現職。コマニー(株)では、SDGsの考えが、会社の「経営の理念」を実現することとつながっていると考え、2018年4月「コマニーSDGs宣言」を行ない、「コマニーSDGs∞（メビウス）モデル」を採択。これまでモノづくりを通じて培ってきた「技術」を軸に、事業活動を通じて社会課題を解決することに取り組んでいる。

② 株式会社マルワ

名古屋市本社の総合企画から印刷までを行う企業。1958年の創業。

社長 鳥原 久資 氏

創業の年に生まれた二代目社長。(株)マルワの事業活動は印刷業という枠にとらわれない多様な活動を展開し、CSR活動にも早くから取り組んでいる。2017年度からは、それらの取り組みをSDGsと関連付けて発信している。「人がつどい社会に発信する会社、地域に愛される総合企画・印刷屋」をモットーに会社を経営。

③ ユニー株式会社

東海地方を中心に住む人ならだれもが知っている総合スーパー。近鉄四日市駅前にはアピタ店がある。

顧問 百瀬 則子 氏

1980年に入社以来、主に環境分野を担当。2003年には環境部長、2017年度には、上席執行役員CSR部長を務め、2018年から現職。ユニー(株)では、特にSDGsの目標12（つくる責任つかう責任）を従来からの取り組みそのものとなし重視。中でも、「12.3 食品を廃棄しない」「3Rの推進」については、消費生活が地球の持続性に大きな役割を果たす課題と述べている。

我が社の取り組みをSDGsの視点から見る

地元の意欲ある企業を対象に、それぞれがどのような取り組みを目指すのがよいか考えるワークショップを行います。

会場：四日市商工会議所3階 中会議室 **定員**：40名

会場アクセス

- 近鉄四日市駅
あすなろう四日市駅
→中央通りを東へ徒歩 10分
- JR 四日市駅
→中央通りを西へ徒歩 10分
- 市役所前バス停
(三重交通バス・三岐バス)
→徒歩 1分
- 市役所隣の
市営駐車場が利用できます



申し込み

対象者：市内に通勤する人または、SDGsを活用した環境経営に関心のある人。

受講申込：下記宛先へメール、ファックス、または環境保全課（市役所5階）に直接下記内容を記入の上、お申し込みください。

しめきり：先着順で受け付け。各講座前日必着。

※定員オーバーで参加いただけない場合のみ連絡致します

「第2回、第3回」 申込書 ※第1回は終了しました。

参加希望回 (○をふる)	第1回 (10/30) SDGsと企業の環境経営	第2回 (11/28) 企業の先進事例に学ぶ	第3回 (12/12) 我が社の取り組みを SDGsの視点から見る
所属	氏名		
電話番号 E-mail			

申込み 四日市市役所 環境保全課 〒510-8601 三重県四日市市諏訪町1番5号

【TEL】 059-354-8188 【FAX】 059-354-4412 【E-mail】 kankyohozen@city.yokkaichi.mie.jp

運営 環境教育ネクストステップ研究会

第3回 我が社の 取り組みをSDGs の視点から見る



SDGs（持続可能な開発目標）の考えを企業経営に取り入れる。いよいよ第3回では、具体的にどのように取り組みを始めたらいいのかを考えます。当日は、環境省が先ごろ出した「すべての企業が持続的に発展するために -SDGs活用ガイド-」を説明していただいた後、参加者でワークショップを行い理解を深めます。ぜひ、ご参加ください。

第3回

12月12日(水)

15時～17時

会場：四日市商工会議所3階 中会議室

定員：40名

【申し込み】

対象者：市内に通勤する人または、SDGsを活用した環境経営に関心のある人。

受講申込：下記宛先へメール、ファックス、または環境保全課（市役所5階）に直接下記内容を記入の上、お申し込みください。

しめきり：先着順で受け付け。講座前日必着。

※定員オーバーで参加いただけない場合のみ連絡致します

【申込書】

所属	
受講者名	
電話番号 E-mail	

申込先 四日市市役所 環境保全課 〒510-8601 三重県四日市市諏訪町1番5号

【TEL】059-354-8188 【FAX】059-354-4412 【E-mail】kankyuhozen@city.yokkaichi.mie.jp

運営

環境教育ネクストステップ研究会